

10 イスラーム教育・道徳教育(価値教育科目)

*マレーシアは複合国家であり、イスラームを信仰するマレー系、仏教や儒教、道教などに価値をおく華人系、ヒンドゥー教やシーク教を信仰するインド系ほか、キリスト教や自然崇拜など、民族によってその倫理観や価値意識の拠り所にも違いがあります。

*こうした社会的状況の中、マレーシアの学校では、価値意識に関する教育としてマレー系の児童・生徒には「イスラーム教育(Pendidikan Islam)」を、華人系・インド系などの非マレー系の児童・生徒には同じ時間に「道徳教育(Pendidikan Moral)」を行っています。

*「イスラーム教育」では、非マレー系の児童・生徒に対する「道徳教育」と同じような道徳的価値の内容も扱っていますが、基本的には「良いムスリム(イスラーム教徒)」になるための基本的な教義や礼拝の仕方、クルアーン(コーラン)の解釈や朗読などの宗教教育です。

*マレーシアでは憲法で信教の自由は保障されていますが、イスラームは国教として規定されるなど、特別な地位を与えられています。道徳的な内容は、シラバスの中にある徳目について事例を読みながら学んでいきます。

*前に述べた「アラビア語」は、マレー系の児童・生徒にとっては、クルアーン(コーラン)を読めるようになるための基礎知識となり、非常に重要な意味を持ちます。

*非マレー系の華人は華語、インド人はタミル語といった各民族の言語を別途学ぶため、マレーシアの子どもたちは、幼いころからマレー語と英語に加え、アラビア語あるいは各民族言語といった三言語を同時期に学び、話すという多言語環境の中で成長して行くのです。